

令和2年度 第1回名桜大学 FD 研修会総評

テーマ：名桜大学情報セキュリティポリシー、ICT を用いた遠隔授業の実施方法について

(文責) 佐久本功達

総評：

沖縄県では、2020（令和2）年に2回、新型コロナウイルスによる感染症拡大を防止することを目的とした緊急事態宣言が発令された。第1回目は4月20日から5月14日までの25日間、第2回目は8月1日から9月5日までの35日間であった。本学は当初、4月9日から新年度の授業を開始する予定であったが、急遽、授業開始を約1か月遅らせる作戦を取った。その作戦内容は、1か月間（ほぼ、第1回目の緊急事態宣言の期間に該当する）を本学教員がオンライン授業に対応するための新たな教授方法の開拓・蓄積の醸成期間とするものであった。この醸成期間の第1日目に、第1回名桜大学 FD 研修会が開催されることとなった。

本研修会の最初のプログラム「名桜大学情報セキュリティポリシー」では、天願健メディアネットワークセンター長より、①「公立大学法人名桜大学情報システム運用基本方針」、②「公立大学名桜大学情報システム運用基本規程」、③「公立大学名桜大学情報システム利用規程」についての概要説明があり、①と②を合わせて、本学の情報セキュリティポリシーが構築されているとの説明があった。また、本学の最高セキュリティ責任者は理事長であることが確認された。

第2のプログラム「ICT を用いた遠隔授業の実施方法について」では、佐久本功達 IR 室長より、「遠隔授業に関する留意事項」として、①「文科省からの遠隔授業に関する通知について」、②「著作権法の規制緩和について」の説明があった。①では資料「令和2年3月24日付け元文科高第1259号「令和2年度における大学等の授業の開始等について」」に基づき、テレビ会議システムを用いた遠隔授業の例、オンライン教材（MOOC等）を用いた遠隔授業の例などの説明があった。②では、文化庁著作権課から著作権等管理事業者及び関係団体に宛てた文書「新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校教育における ICT を活用した著作物の円滑な利用について」に基づき、平成30年の著作権法改正による「授業目的公衆送信補償金制度」の説明があり、教育機関に対して著作物のオンライン利用について、配慮するよう依頼が行われていることが情報共有された。

第3のプログラム「学生支援システムの活用について」では、玉城正貴教務部教務課学習支援係長より、UniversalPassport の「揭示機能」、「授業資料機能」、「課題機能」について説明があり、教員から学生へのアナウンスの方法やオンライン授業における教材配布および課題の出題の具体的な操作方法がハンズオン形式で行われた。

第4のプログラム「遠隔授業用ストーリーミング教材の作成法について」では、佐久本功達 IR 室長より、①「Microsoft PowerPoint を使用した音声付き動画教材について」、②「YouTube へのアップロード」の説明があった。①では、これまで教員が蓄積してきたス

ライド資料を活用することがメリットであること、また教員の姿を動画撮影する際には、カメラ目線を意識する方がより対面を意識した学生・教員間の透過性に優れた動画教材になるとの説明があった。②では、作成した動画教材をアップロードする際、アクセスの制限を設けることができるとの説明があった。また、YouTube にアップロードした動画は Google classroom にリンクを貼り付けることもでき、さらに YouTube ではなく Google Classroom に直接動画をアップロードする方法についても説明があった。

第5のプログラム「オンラインシステムによる遠隔授業について」では、長山豪太メディアネットワークセンター保守員より、リアルタイム型の遠隔授業の ICT ツールとして、①「Microsoft Teams」、②「Cisco Webex」、③「MeetingPlaza」、④「Zoom」の説明があり、特に①については、本学として推奨するものであり、詳細な操作方法の説明があった。

最後のプログラム「その他（依頼事項等）」については、林優子副学長より、文部科学省からのガイドラインと本学の方針に基づき、欠席の取り扱い、教育の質保証についての説明・依頼があった。

質疑応答では、コロナ禍の状況により15週の期間が確保ができない場合はどのように対処すべきかについての質問があり、砂川昌範学長より、文部科学省の大学設置基準に従うことが示され、たとえば、15週が確保できない場合は、1週で2回の授業を提供し単位の保証をする本学の方針説明があった。

本研修会終了後のアンケート調査の質問項目「研修会の内容について（5.満足／4.やや満足／3.ふつう／2.やや改善／1.改善の余地）」では、「5.満足」が25.7%、「4.やや満足」が48.6%となっており、両方で74.3%を占めた結果となった。このことから、参加者は研修内容について比較的満足であったことが伺える。

本研修会がきっかけとなり Garoon スペースで「遠隔授業（事例と Q&A）」が立ち上がった。本スペースでは「UniversalPassport の事例」、「著作権／セキュリティ関係」、「Microsoft Teams の事例」、「関係リンク集や資料」、「何でも質問コーナー」、「Google classroom の事例」、「非常勤講師への対応」、「学生への対応」、「実習・実技関係の事例」、「語学関係の事例」、「FAQ」などのディスカッションが立ち上がり、ICT を用いた遠隔授業の実施について、現在も全学的な情報共有が継続中である。